



春の火災予防運動

「消したかな」あなたを守る合言葉

3月1日(火)から7日(月)までは春の火災予防運動が実施されます。改めて防火について考えてみましょう。

防火を心がける 7つのポイント

▼3つの習慣

○寝たばこは、絶対やめる
○ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する

○ガスコンロなどのそばを離れるときは、必ず火を消す

▼4つの対策

○逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する
○寝具や衣類からの火災を防ぐために、防災品を使用する

○火災を小さいうちに消すために、消火器などを設置する
○お年寄りや身体の不自由

な人を守るために、近所の協力体制をつくる
ほかにも防火のために心がける点があります。一人ひとりの心がけが大切です。

住宅用火災警報器 設置しましたか？

既存の住宅についても、住宅用火災警報器の設置が義務づけられています。

主に寝室や階段に設置することになっていますが、詳細については消防署までお問い合わせください。

※台所には設置する義務はありませんが、火災の早期発見のためにも設置するようにしてください。

▼実際にあった事例

2階の部屋で布団を椅子の上にかけて干していたところ、近くにあった電気ストーブと接触し着火、階段

部分に付けていた住宅用火災警報器が作動した。1階でその警報音に気付いた居住者は、119番通報し、水をくんだバケツにより初期消火を行った。など多数寄せられています。

老朽化した消火器

腐食などの進んだ消火器は破裂事故の原因となります。専門業者に処分してもらいましょう。

火災防スライコンクール 受賞者の作品展示

3月1日(火)から7日(月)まで老人福祉センターに展示します。

問合せ 消防署 ☎(42) 9119・FAX(42) 9117

悪質訪問販売にご注意

消火器や、住宅用火災警報器の悪質訪問販売が増えています。もし、騙されてしまったら、消費生活支援センターにご相談ください。

相談 埼玉県消費生活支援センター春日部 ☎048(734)0999

高病原性鳥インフルエンザへの対応について

鳥インフルエンザウィルスは、野鳥観察など通常の接し方では、人に感染しないと考えられています。正しい情報に基づいた、冷静な行動をお願いいたします。

◆◆◆ 野鳥との接し方について ◆◆◆

○死亡した野鳥などの野生動物には、素手で触らないでください。

○日常生活において、野鳥などの野生動物の排泄物に触れた後には、「手洗い」と「うがい」を行えば、過度に心配する必要はありません。

○野鳥のフンが靴の裏や車両に付くことにより、鳥インフルエンザウィルスがほかの地域へ運ばれるおそれがありますので、野鳥に近づきすぎないようにしてください。特に、靴でフンを踏まないよう十分注意して、必要に応じて消毒を行ってください。

○不必要に野鳥を追いついたり、つかまえようとするのは避けてください。

野鳥は餌の不足や寒さ、壁や電線などにぶつかって死亡することもあり、死亡していても、直ちに鳥インフルエンザを疑う必要はないと考えられています。ほかの細菌などをもっている場合もあります。また、同じ場所でたくさんの野鳥などが死亡していたら、東部環境管理事務所や埼玉県自然環境課または市環境課までご連絡ください。

問合せ 東部環境管理事務所 ☎(34) 4011 埼玉県自然環境課 ☎048(830) 3143 市環境課 ☎(48) 0331



将来を担う元気な 子どもたちを 育てるために

◆項目別平成22年度幸手市平均値

	小学生		中学生	
	男子 Tスコア	女子 Tスコア	男子 Tスコア	女子 Tスコア
握力	50.8	50.7	49.6	49.1
上体起こし	51.1	52.6	52.5	52.2
長座体前屈	49.2	50.9	51.7	50.5
反復横跳び	51.8	52.7	52.3	51.0
持久走	-	-	49.6	48.0
20mシャトルラン	53.0	53.9	51.2	49.4
50m走	50.9	51.1	50.3	49.8
立ち幅跳び	50.3	50.1	51.5	50.2
ボール投げ	48.2	48.6	49.8	48.8

※埼玉県平均(Tスコア)は50。

埼玉県では、児童生徒が
自己の体力を理解し、自ら
の健康増進・体力向上を図
ることができるようになる
ことを目的に「新体力テス
ト」を行っています。

ここでは、平成22年度の
幸手市児童生徒調査結果概
要をお知らせします。

▼調査概要

調査対象 市内全児童生徒
調査時期 4月～6月(各学
校で実施)

調査項目 握力、上体起こ
し、長座体前屈、反復横
跳び、持久走(※1)、20
mシャトルラン、50m走、

立ち幅跳び、ボール投げ
(※2)

(※1) 中学校のみ実施。

(※2) 小学校はソフトボー
ル、中学校はハンドボー
ルを使用。

▼市内児童生徒概要

項目数で平均値を比較す
ると小中学校合計150項
目中139項目(92・7%)
が、埼玉県の平均値と同等
もしくは、上回っているこ
とがわかりました。

▼小学校の主な特徴(右表)

項目別にTスコアで比較
すると男女ともに「筋力」「敏
捷性」「持久力」の項目で埼玉

県の平均値を上回っていま
す。一方で男子の「柔軟性」や
男女ともに「投力」に課題が
あることがわかりました。

▼中学校の主な特徴(上表)

項目別にTスコアで比較
すると男女ともに「筋力」
「敏捷性」の項目で埼玉県の
平均値を上回っている一方で
「持久力」や「投力」に課題が
あることがわかりました。

▼今後の取組

幸手市教育委員会では、
今後体力向上推進委員会に
おいて、調査結果をさらに
詳細に分析し、来年度の体
力向上に向けて具体的な方策
を検討します。

また、各学校において、一
人ひとりの児童生徒の体力
や生活習慣、食習慣、運動習
慣を把握し、体育・保健に関
する指導の改善が図られる
よう支援していきます。

平成22年度新体力テスト
の結果概要については、学
校教育課のホームページを
ご覧ください。

<http://www.city.saitama.lg.jp/>
各課案内↓学校教育課

問合せ 学校教育課 ☎(43)

1111 内線632・

FAX (43) 3188

「ありがとう」の言葉に秘める想い

人権それは愛

働き者の母が突然倒れた。昨日まで元気に働いていた母が…。

救急車のサイレンは母には聞こえているのか、おそらく聞こえてはいないと思う。ただ呆然と母のそばに寄り添っている自分がある。どうして母が…。

主治医から説明を聞き大病とのこと。どうしてこんなになるまで、母の病が分からなかったのか悔やんだ。

母は今まで体の異変に気づけなかったわけではないと思う。

ただ、周囲に心配をかけまいと母は…。

今、そうした母の想いがこみ上げてくる。

ベッドから起き上がれない状態で、お見舞いに来た方に、すべての想いがつまった「ありがとう」をひとつひとつ噛みしめながら、言葉に出す母。

そんな母の姿を見て、自分は「ありがとう」の言葉を、本当に心をこめて伝えているだろうか、自分に問いたず日々が続いた。

うわべの言葉ではなく、心のこもったあいさつや思いやりのある言葉を、母の「ありがとう」から学ぶことができた。

これからの多くの人との出会いの中で、「ありがとう」の言葉に秘める想いを大切にしていこうと思っている。